

No.154



中部 教区通信

編集 日本基督教団中部教区
教区通信編集委員会
発行人 加藤 幹夫
発行所 〒461-0009
名古屋市中区久屋町8の6
日本基督教団中部教区事務所
電話 (052) 971-8497
Email ckkyo@quartz.ocn.ne.jp
振替口座 00830-7-52037
Homepage <http://uccj-chubu.com>



主イエスと呼ぶために

コリントの信徒への手紙—12章3節

福井神明教会 佐藤誠司

今、私は、説教の中で主イエスをお呼びするとき、「主イエス」と言い、「イエス様」と呼び、「イエス・キリスト」と呼びます。ところが、以前はそうではなかったのです。

もう40年近く昔の事になりますが、大阪の母教会で、私は月に一度、夕礼拝の説教者に立てられていました。その説教の中で、私は「主イエス」ではなく「イエス様」でもなく、「イエス」と呼ぶのを常としていました。「イエスは」「イエスは」と呼び捨てにしていたのです。この夕礼拝に毎回出席して、私の説教を聴いてくださるご婦人がおられました。このご婦人が、ある日の夕礼拝の後で、こうお尋ねになりました。「佐藤さんは、説教の中で、どうして『イエスは』『イエスは』と言うのですか。」私が返答に窮していると、牧師が間に入って、「説教の立場によっては、客観的・中立的に、『イエス』で通すやり方もあるのですよ」と答えてくれました。助け舟を出してくれたわけです。その場は、これでおさまりました。

ところが、それから数日後、私と牧師が二人きりになった時、牧師がこう切り出したのです。「佐藤さん、あれは良くないよ。」私が煮え切らない返事をしていますと、牧師が語気を強めて、こう言いました。

「説教者が『主イエス』と呼べない説教を聴いて、教会員が『主イエス』と呼べるか！」

まさにぐうの音も出ない、強烈な一言でした。これは呼び方の問題ではない。伝道者としての生き方の問題でした。牧師が声を荒らげてまで言いたかったのは、まさにそこであり、「佐藤さん、イエスと呼ぶか、主イエスと呼ぶかで、あなたの伝道者としての生き方が決まってしまうよ」と言いたかったのでしょう。重ねて言いますが、これは呼び方の問題ではない。生き方の問題です。

説教者・伝道者というのは、イエス・キリストの福音を語ります。福音を語るには、説教者自身が福音に生きていなければなりません。主イエスの福音に生きる時に、私たちは主イエスを客観的・中立的に「イエ

ス」と呼び捨てにすることが出来るだろうか。私は出来ないと思うのです。そしてこれは決して説教者・伝道者だけのことではないとも思います。

「主イエス」という呼び名は、もうそれだけで「イエスは主である」という意味を持つものです。「イエスは主である」といえば、使徒パウロがコリントの教会の人々に宛てて書いた第一の手紙に次の言葉があります。「神の霊によって語る人は、誰も『イエスは呪われよ』とは言わず、また、聖霊によらなければ、誰も『イエスは主である』と言うことはできません。」

これは大切な御言葉です。何が言われているかと言うと、イエス様を「主」と呼ぶというのは、決して人の知恵や信念によるのではなく、聖霊の働きによるのだということです。ですから、信じるということは、イエスを「主」「私の主」と呼ぶことにほかならない。さらに言うなら、信じるということは、自分が身も心も主のものであると、喜んで告白することです。

今、私は「身も心も」と言いましたが、これはキリストを信じる信仰の、ある意味、本質を衝く言葉であると思います。心だけで信じておれば良いというものではない。「身も心も主のもの」となる。それが大事です。

しかしながら、この日本という国でイエス様を主と告白して生きることは、思いのほか困難を伴うことでもあります。それは牧師よりも、信徒の皆さんのほうが、より切実に感じておられると思います。家族の中で、地域社会の中で、親戚のお付き合いの中で、あるいは職場や学校で。日本の社会にはたくさんの「主」が軒を連ねています。会社や企業が主になって、私たちの人生を支配しにかかることもあるでしょう。地域社会の習わしが主になって、私たちの内心の自由を束縛することだってある。社会の様々な力が、私たちの心と体を、それこそ「身も心も」支配しようとしています。

信仰というのはそういうすべての偽りの主に「ノー」と言うことです。「イエス様こそが私のただ一人の主だ」と明白に言うことです。ここに一緒に立ちましょう。

教師研修会に参加して

11月17・18日（月・火）、中部教区教師研修会が蒲郡温泉・天の丸を会場に、「牧会における聴くことの意義『牧会カウンセリングに学ぶ傾聴の基本』」の主題のもと開催され、リモートを含めて44名が参加しました。講師として吉岡光人先生（吉祥寺教会牧師）が招かれました。吉岡先生はキリスト教カウンセリングセンター理事、キリスト教メンタルケアセンター理事、また、いくつかの大学や神学校で牧会学や牧会カウンセリングなどを教えておられます。

一日目の冒頭でボンヘッファーの言葉が示されました。曰く「神への愛は、わたしたちが神の言葉を聞くことから始まるように、兄弟への愛の始まりは、わたしたちが兄弟の言葉を聞くことを学ぶことである」。牧師の主要な働きは毎週の礼拝で神の言葉を語ることで、説教の準備に牧師たちは労しています。しかしそれ以上に聴くことが大切だといいます。一日目の講演は、牧会カウンセリングの基礎を築いたアントン・ボイセン、非指示的カウンセリングを確立したカール・ロジャーズと彼らの貢献、そして日本の教会における牧会カウンセリングが果たすことができる役割（教師－信徒、信徒－信徒、教師－教師それぞれの関係において等々）について語られました。三重地区では3月20日に「長老・役員による信仰のケア」という主題で役員研修会を行います、それもこの流れの中にある企画だと推察します。

二日目は主として傾聴の実践的な事柄、たとえばただ聴くだけでなく、相手が「何を・どのように」（顔をまっすぐか下を向いてるか、スラスラ話しているかためらいながらかなど）話しているか、表情、態度を観察する積極的傾聴が求められ、そのための姿勢や技術を学ぶことができました。

私は大学や神学校では心理学系統の授業をほとん

ど受けずに卒業して、1992年に牧会の現場に出ました。そこは雲仙普賢岳の噴火災害で被災した人たちのための「心の電話相談室」を始めるところで、カウンセラー養成講座の会場教会でした。その講座で初めて傾聴ということを知り、カウンセラーがクライアントに指示してはいけないと学んだのを思い出しました。

教師研修会にはこの2,3年出席できず久しぶりでした。コロナ禍以後ズーム会議が多くなり、今回もズームによる参加が可能で、それはありがたいことでもありましたが、できる限りオフラインでの参加が望ましいと感じました。礼拝の大事な務めは説教と聖礼典ですが、聖餐式は元をただせば普通の食事の中で行われていたものです。つまり教会は教えを聞く教室というより、共に食事をする場だった。教区の教師が一堂に会して寝食を共にしながら、福音伝道を語り合うことに意義があるのだと改めて感じました。

教区通信編集委員会 石田聖実



ふるはの声

私はコーヒーが好きですが、最近ほ豆も値段が高くなり、工夫します。生豆が安く、自家焙煎をします。面白いです。ねらった味には、なかなかドンピシャリと決まらず、うまく行かない方が多いのです。でも、それで良いと思います。毎回、色んな味を感じます。完全でないが、それが興味深い。そして、気付くのです。もう一度、同じ味を再現するも至難の業だと。一期一会です。そして、簡単な正解などないと知らされるのです。それで良いと。

コーヒーもさることながら、人の歩みには一種類しかないことはありません。何事もそうです。教会もそうです。みな、固有の尊い歩みを重ねています。一様でなく、試行錯誤しながら歩んだ。今”は、掛け替えのないたった一つの軌跡になります。今重ねられている数多くの歩みが、主の前に尊いと思っ

ています。主に望みを置き、懸命に歩み重なるお一人お一人に、主の幸いを祈っています。

名古屋中央教会 竹内款一



按手礼を受けて

名古屋中央教会 日下部蒔恵くさかべまきえ

この度、按手礼を受け正教師となりました。教会での働きは、神さまが私に示してくださった道であると確信して、「神と人と教会と、そして地域に仕えたい」と願い歩んできた補教師の2

年半でした。信徒の方々や教会を訪れた方との出会いや交わりが与えられる中で、確かにここに神さまの業があらわれていると感じています。また、その場所に主の教会が立てられ、福音が告げられていることがどれ程大切に尊いか、改めて気付くことが出来ました。正教師への道は平坦ではなく、主の御旨を探し求める日々でしたが、一人の正教師として立てられたということの重さを自覚して、これからも誠実に仕えていきたいと思いません。最後に、正教師試験・按手礼を支えてくださった全ての方に、温かいお言葉をかけてくださった全ての方に、心から感謝申し上げます。



准允を受けて

南山教会 大塚 椋おおくら せいら

このたび、日本基督教団において准允を受け、補教師として新たな歩みを始めることが許されました大塚椋と申します。2025年のあいだ信徒伝道者

として奉仕した南山教会、教会事務として経験を積ませていただいた名古屋東教会、これまで祈りと励ましをもって支えてくださった諸教会、諸先輩、関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。准允式において、神の召しに応答しつつ教会に仕える者として立てられたことの重さと恵みを、あらためて深く覚えました。未熟さを覚えつつも、御言葉と祈りに立ち、託された群れと共に主の福音に生きる歩みを大切にしていきたいと思います。今後ともご指導とお祈りを賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

全国教会婦人会連合「第29期全国委員研修会」報告

2025年11月24～25日名古屋教会を会場に150名近い参加者と40数名のオンライン視聴者が集い、「第29期全国委員研修会」が開催されました。

今回の主題「キリストにある平和を共に追い求めよう—エフェソの信徒への手紙に聴きつつ—」に基づき、1日目は藤川綾子教師(奈良高畑教会)の「天地創造の前から」の説教で開会礼拝が行われました。続いて「エフェソの信徒への手紙について」小室尚子先生(金城学院学院長・同学院大学長)の主題講演が有りました。「キリストにある平和」とは「神と人との関係が正しく保たれている状態」であり、「平和を実現する人々は幸いである」の教えは「天地を完全な平和の姿に創造された神を忘れて、争いの世界にしてしまった人間を正しい神との関係に戻す事に努める」。今の世界の状況に正にタイムリーなテーマでした。その後、会場参加者は11分団、12人程の小グループに分かれ、講演の感想、疑問等様々な話題を自己紹介と共に話し合いました。歓談の後、寄せられた質問、感想等に小室先生からのお答えを頂く全体会は「キリストの愛」を時間オーバーで語られる先生の熱き思いに豊



かな恵みを頂き、一日を終えました。

翌日は尹太悉ユンテシ教師(御器所教会)の「キリストはあなたを照らされる」の朝拝で始まり、先生から「隣り合う人々と挨拶をしましょう」との呼び掛けで、親しく挨拶を交わして良い雰囲気の中に2日目のプログラムが進みました。「全国教会婦人会連合の学び」のトップは中部教区が準備した朗読劇、分かり易いと好評でした。映像と共に全国12教区と7小委員会の紹介があり、最後はオンラインを通して能登半島地震支援現地委員会委員長の松島保真教師(小松教会)から現在の状況を報告して頂きました。閉会は井上とも子氏(無任所教師、ユーオーディア・アンサンブル)のチェロと奥山初枝氏(阿佐ヶ谷教会)のピアノ演奏による音楽礼拝でした。チェロの落ち着いた音色が深く心に響きました。

今回の研修会は十数年振りに愛知西地区で開催され、多くの参加者から好評を頂きました。準備段階から、様々なお役を担って下さった方々に心より感謝申し上げます。

名古屋中村教会 加藤啓子

活かされています 伝道活動援助費

50周年記念礼拝と音楽のつどい 田原吉胡伝道所

愛知県南端の田原の地に福音の種蒔きをされたのはアメリカから帰国された長田信吉・稔夫妻でした。1960年、田原吉胡に居を定められた夫妻は『日曜学校』と『聖書研究会』を開かれ近隣に根づかれました。信吉氏亡き後は稔夫人がフレンド派信仰により『吉胡キリスト友会』として伝道をされましたが、将来を展望し日本基督教団の教会として成長することを望まれ、教区との協議の末ついに1975年に『日本基督教団田原吉胡伝道所』の開設式が行われました。



伝道の歩みは初代担任教師として大森清一氏が3年を担われましたが、その後は加藤久雄牧師が代務を、1981年からは田島正人牧師夫妻が沖縄から転任され8年にわたってこの地に住みつつ伝道を担われました。1991年からは加藤久雄牧師が2009年まで、白田宣弘牧師が2015までを主任教師として牧会と伝道にあたられました。以後は無牧伝道所として礼拝や伝道が続きますが、この間の無牧期間には数

知れぬ教区地区の教師のご支援を頂いたことを記さずにはおれません。ことに東地区の豊橋教会には金子敏明教師、前田和之教師と多大な助力に与りました。私高岡の以前には刈谷教会が信徒の方々と共に平井克也教師を代務としてお送りくださいました。そしてこの間の教区や地区からの多大なご支援にはただ感謝あるのみです。

昨2025年はこのような豊かな支援あつての伝道50年の歩みを感謝し、6月29日に『50周年記念礼拝と音楽のつどい』を開催しました。礼拝では教区巡回教師西村清先生から「歴史を紡ぐ宣教への思い」との説教が与えられ、音楽のつどいでは加藤千加子さんのオルガン演奏、金城学院大学クワイアによる讃美歌演奏、地域の方々交えての合唱に心揺さぶられました。これらは教区の伝道活動援助に活かされたものです。いま一度、主が渥美半島の地に遣わされた田原吉胡伝道所の意義を深く感謝をもって自覚し祈るものであります。 代務者 高岡 清

創立記念コンサートなど 内灘教会

内灘教会では、「ここに教会がある」ということを地域の方に知らせるため、教会のチラシ、封筒、はがき、カードを準備し印刷しました。音楽集会や発酵料理教室、親子で楽しむクリスマスなどをその都度計画し実行してきました。

音楽集会は「創立記念日コンサート」として創立記念日にあわせて実施してきました。これまでクラシックギター、ハープ、フルート、マリンバ、フラメンコ、クラリネット、合唱、ハンドベルとゲストをお招きしてきました。また、それとは別に教会セミナーとして「礼拝音楽」について金沢教会のオルガニストにお話と演奏をしていただいたり、譲り受けた「岡野オルガン」のお披露目のコンサートを金沢教会・内灘教会のオルガニストによって実施したりしてきました。どの集会にも牧師による聖書のお話・メッセージを入れてきました。



発酵料理教室は、有名な糀料理クリエイターを招いて行われてきました。教会員の家族や地域の方、子ど

もたちと共に実施しました。また、親子で教会に来ていただく集会として、音楽あそびやクッキング、クリスマスのイベントを行ってきました。教会学校の子どもたちがクリスマス祝会でお披露目する「パネルシアター」をオリジナルの台本でやったり、幼稚園教諭の会員が賜物を活かした歌やゲームなどの楽しい活動をしたりしてきました。

内灘教会は、2年間の無牧師の期間を過ごしておりましたが、2026年1月から内灘教会から献身された桶谷忠司牧師をお迎えし、新しくスタートすることになりました。この場を借りて感謝いたします。これまでいろいろな教師が内灘教会に集う兄弟姉妹のためにみ言葉を語ってくださり、それを受けることができるのも、恵みでした。ある日の説教の中で「小さな内灘町の教会ですが、イエス・キリストもナザレという小さな名も無い町で育ちました」というお話をいただきました。感謝のみ言葉でした。

長老 三田耕平

福野伝道所

ここでの宣教

熱田教会

先日、富山県南砺市のローカルテレビ番組を見ておりましたら、地域のお祭りの映像が映っていました。そこには私を知っている人々が多く映っていました。幼稚園の保護者や子どもたち、パン屋の店長、教会員の息子さんなどなど。彼らが楽しそうに太鼓を叩き、神輿を担いでいる姿を見ますと、この地でイエス様の福音を知らせることがいかに困難なことかを、富山に遣わされて11年目にして改めて思われました。しかし、それをはるかに超えて、神様のご計画は揺るぎないものであることを確信しております。忘れもしない2024年11月17日、福野伝道所の献堂式が行われました。この地で伝道が開始されて100年が経とうとしている時に、初めて礼拝堂が建てられたのです。約30年もの間、祈られ続けてきました。何度も計画が破綻し、停滞していました。兼牧している福光教会との合併まで考えました。信徒数や経済状況、教会同士の距離や関係性などを鑑み、それが妥当性を持っていると幾度も自分に言い聞かせました。体とは真逆に心が痩せ細っていく中、私の内に残った祈りは「お任せします」というイエス様を頼る言葉のみになりました。しかしそれは私個人の祈りではなく、30年の間、教会の方々が真剣に祈り続けてこられた祈りであることに気付かされたのです。数字や人の言動など、目に見えることに揺るがされ、焦っていたのかもしれませんが。浄土真宗王国と呼ばれるこの地での伝道に絶望していたのかもしれませんが。しかし、今ははっきりと分かります。今この地に教会が建てられ、信仰者が生きている。それはイエス様がこの地に生きる人々を救おうとしておられるしるしである。ならば、私たちもその御心を自分自身の心とさせていただき、御言葉が広まるために働きましょう。自分自身がこの地に出て行き、新しく出会う人々を教会に招きましょう。今の働きがどのような実りにつながるのか楽しみにしながら、主を賛美し、伝道に励みます。 牧師 吉川光太郎

熱田教会は、米国メソジスト(美)・プロテスタント(普)教会から日本に派遣された宣教師たちによって設立された教会の一つです。名古屋第1美普教会は現在の広路教会、第2は中京教会、そして第3が熱田教会です。「名古屋第3美普教会」は1905年に東本願寺別院の門前町に橘町講義所として伝道を開始しました。「熱田美普教会」は熱田神宮の門前町で1912年から熱田講義所として伝道していました。この二つが1930年に合併して出来たのが熱田教会です。この地で35年間伝道された加藤久雄牧師は、ここでの宣教の次のように記しておられます。「熱田教会の歴史を顧みて思いますことは、先人たちは仏教と神道の強い地盤の土地に講義所を建て、福音を伝え続けられました。伝道への情熱と堅固な信仰の地道な努力の継続を深く思います。また同時に他宗教・文化への関わりの仕方も考えさせられます。日本という土壌の中で、どのように福音を伝えてゆくかは、大きな課題であります。信者一人一人が福音の喜びに満たされ、与えられた人生の時を感謝して力強く歩むことが大切かと思えます。」地域に根を下ろす上で、教会の伝道と共に付属の「堅磐信誠(かきわしんせい)幼稚園」の教育の業も重要な役割を担って来ました。

メソジスト教会の特徴の一つに「恵の座」があります。聖餐を受ける際に跪く場所であり、熱田教会の場合は、ナルドの香油の壺をイメージした12本の木製の柱が聖餐卓を囲むように造られていました。壺は献身を、12本は主の弟子たちを表しています。聖餐式を配餐形式で行うようになってからは、「恵の座」に跪くことはなくなりました。「恵の座」を新会堂でも残すか否か協議した結果、綺麗にリメイクして礼拝室後方の上部にバルコニー風に設置し、伝統の証しとして残すことになりました。新会堂は多くの方々の祈りと支えにより、創立120周年を迎えた2025年に完成、献堂することができました。 牧師 小林 光



富山地区

地区会長を担ってこられた小堀康彦教師が転任されたことを受け、地区総会で会長、書記、会計が交代しました。毎年秋分の日を用いて信徒修養会が行われます。今回は小松教会の松島保真教師をお招きし「老人に夢を、若者に幻を～伝道はATMで～」という主題で講演いただきました。使徒たちの歩みを導いた聖霊なる神を信頼して、明るく (A) 楽しく (T) 無理をしないで (M)、それぞれの教会の持ち味を生かしながら伝道し続ける幻と夢を分かち合うことが出来ました。2月11日 (水) には長老幹事役員研修会を計画しています。今年度は「教会の財務—今の時代を乗り切る」という主題を掲げ、名古屋教会の田口博之牧師 (中部教区財政検討委員会委員長) をお招きして講演を伺います。能登半島地震で被害のあった魚津教会は、伝道に用いている建物「アガペハウス」の補修工事をこの春から始められます。教団委員会へ援助申請するとともに120周年記念事業として位置づけて全国募金を呼びかけます。富山鹿島町教会は4月より加藤太朗教師をむかえられ、出町教会では教区総会で准允を受けられた前田尚子^{なおこ}教師が伝道師として就任されました。主の導きを感謝しています。

富山地区会長 ^{わたなべ} 渡部和使

岐阜地区

岐阜地区は8つの教団の教会と2つの在日大韓基督教教会、および美濃加茂のUCCP-J (フィリピン合同教会) との交流・活動を行っており、昨年は、在日大韓基督教教会と日本基督教団協約締結40周年を記念して、10月に在日大韓基督教教会岐阜教会の新会堂で合同礼拝を行い、38名の方が参加されました。

また、合同礼拝で集まった献金は、一昨年1月1日に発生した能登半島地震をはじめとする災害援助のために使わせていただき、今年度も引き続き募金を行っています。なお、UCCP-Jの本国フィリピンでも、台風・地震などの災害が続けて発生しており、こちらでも各教会で祈りを合わせつつ、献金を集めています。

今年度は、十数年ぶりに一泊での信徒大会を下呂温泉いずみ荘で開催し、各教会から歌いたい曲や演奏したい曲を持ち寄って音楽交流会が行われ、33名の方が参加されました。初めての試みでしたが、温かい交流のときが持てました。来年度は中部教区の役員研修会が岐阜地区で行われる予定のため、現在準備を進めています。

岐阜地区は教会の数も教師の人数も限られており、信徒の高齢化や会員の減少など、課題も多くありますが、引き続き地区内外の方々と支え合って、歩を進めたいと思います。

岐阜地区会長 柳本伸良



愛知西地区

2025年度も、愛知西地区内34教会・伝道所において御言葉を宣べ伝える喜びの礼拝が献げられています。主に感謝いたします。

4月より中根一茂教師 (豊明新生教会) とヤング肇子教師 (赤池教会) がそれぞれ伝道師として、前田和之教師 (枇杷島教会) が牧師として着任され、新しい風が吹きました。

また、6月末に尹成奎教師が中川ぶどうの木伝道所を辞任され、八東が代務を担うこととなりました。このほか代務体制の愛北教会に田中郷史教師 (小牧教会)、桃山教会に田口博之教師 (名古屋教会)、名古屋東教会に村山盛芳教師 (南山教会)、名古屋

堀川伝道所に佐藤直樹教師 (愛知東地区岡崎茨坪伝道所) が仕えておられます。主が教会員お一人おひとりをお守りくださいますようお願いいたします。

7月には熱田教会の新会堂献堂式が行われ、12月には日下部蒔恵教師 (名古屋中央教会) の正教師授手礼式、大塚椋教師 (南山教会) の補教師准允式が喜びのうちに行われました。

2026年3月末をもって田中文宏牧師が名古屋桜山教会を辞任され、村山盛芳牧師が南山教会を辞任されます。これまでの貴いお働きを主に感謝します。節目を迎えられました両教会に主の導きをお祈り申し上げます。

愛知西地区会長 八東 清

隠退して

昨年4月末で隠退した田中真希子です。公務員生活を経て神学校に入学し、卒業以来37年間、教団の教師として働くことができ感謝しています。教団の隠退承認書には「1988年に永福町教会担任教師就任以来…32年の長きにわたり…」と書かれ、無任所であった時期は当然ながら入っていませんでした。ただ夫婦教職ですので、無任所だった時期も現在も牧師館に住み仕事をしています。まだ隠退の実感はありません。それ

は、夫が隠退した後になると思います。一昨年兼務主任だった日進教会が解散しました。嫁いで以来、自宅敷地内の教会を守ってきた94歳の姉妹が桜山教会に籍を移し、ご家族と共に礼拝に出席しておられますが、奉仕ができないと残念がっています。そんな信仰生活に励まされています。私もそのような信仰生活を続けたいと思います。

田中真希子

武岡洋治教師を偲んで



神さまが武岡洋治先生に与えた地上の生涯は88年であった。母教会は安城教会で、名古屋大学農学部で教授（専門は作物学）をつとめられた。研究でスーダン滞在中の1992年、マラリア治療の薬害により生死の境をさまよひ、両眼の視力をほぼ失われる奇禍にあわれた。ここから生還する体験をへて、退官後、同志社大学神学部神学研究科に進み、2002年に准允を受け、名古屋東教会に遣わされる。翌年、安城教会に赴任され、隠退まで同教会に仕えられた。

『「命のほころび」が人々の心身や社会の随所に見られる昨今、十字架と復活の事実に顕された「癒傷」の福音を宣べ伝える教会の道を痛感させられます』と赴任の挨拶で語っておられる。「日本・スーダンひとつぶの会」を立ち上げ、現地の視覚障碍児を支援するなど多方面で誠実に仕えられた。

半田教会 横山良樹

能登半島地震2年記念礼拝報告

2026年1月1日（木）午後4時より、能登半島地震2年記念礼拝を献げました。ホスト会場を阿漕教会とし、中部教区内はZoomによるオンライン参加、それ以外の方々にはYouTube配信によって行いました。ホスト会場には21名が参加し、Zoom参加は56拠点、YouTube配信は101拠点でした。

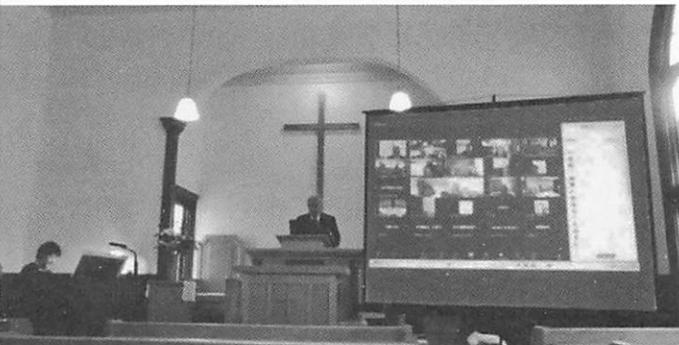
礼拝は、序詞に続き、地震発災時刻である午後4時10分に合わせて1分間の黙祷を行い、司式者の祈りが献げられました。前回は祈りの時のみでしたが、今回は記念礼拝として、被災教会である輪島教会の牧師、新藤豪先生に説教をお願いしました。サムエル記上16章7節、「人は目に映ることを見るが、主は心によって見る」という御言葉から、人の思いを超えて働かれる主なる神のご支配に心を留め、主から与えられる

慰めを共に味わう時となりました。

また、被災4教会から祈りのためのメッセージをお寄せいただき、これを礼拝の中で朗読し、現在の課題を共有しながら、祈りの時を持ちました。輪島教会は牧師館が解体され、牧師は仮設住宅での生活を続けていますが、1月には牧師館建設が始まり、会堂についても建設に向けた検討が進められています。七尾教会は、地域に根ざした教会として、幼稚園の働きを通して地域の人々に仕えています。会堂および幼稚園の改修は進められていますが、高齢化や人口流出が加速する中、多くの業務に追われている現実があります。羽咋教会は教団ボランティアの受け入れを担い、多くの奉仕をしてくださっています。魚津教会は震災被害を受けた会堂の補修を終え、現在は地域の伝道拠点であるアガペハウスの改修工事に取り組んでいます。

被災地にある教会とその関連施設が、主の力によって支えられ、福音の言葉が力強く宣べ伝えられますように祈ります。牧師をはじめ、長老、役員、教会員の方々、被災地にあって魂が打ちひしがれている方々に、主の慰めが豊かにありますように祈ります。

中部教区総会議長 加藤幹夫



10月21日 常置委員会 鵜方教会・大台めぐみ教会 問安

鵜方駅に近づくと車窓からスペイン村が遠くに見える。海があり、低い山々があり、田畑の向こうに町がある。鵜方教会は駅から車で10分ほど。今は無牧師の教会で鳥羽教会の畑雅乃先生が代務をしてくださっている。会堂は広い敷地に堂々と建っている。周りは雑木林だが、林の中までよく手入れされていて驚く。雑草を抜き、色とりどりの草花が植えられている。正面入り口には鐘があり、その音はきっと「ここに教会がある」と響きわたるのだろう。玄関を入ると広い廊下の両サイドに集会室、そして吹き抜けの礼拝堂へと導かれる。礼拝堂でまず目につくのは窓のステンドグラス。新しい椅子には一つ一つ手作りのクッション。教会の裏には立派な納骨堂があり、一人一人が大切に葬られている。

二階の牧師館は、広々としたシステムキッチンに合宿ができそうなほどの部屋。ベランダも広々としていて「私の教会の牧師はかわいそう」と思わず思ってしまうほどの充実ぶりである。現住陪餐会員18名というのにこのようにきめ細やかに教会を維持できるのは、教会員の皆さんが教会を心から大切に思い、時間をかけて誠実に奉仕されて

いるからだと思う。

鵜方教会からいくつもの山を越えて、大台めぐみ教会へ。ここも無牧師の教会で松阪教会の吉川進先生が代務をしてくださっている。古い歴史を感じさせる山里の小さな教会で、あたたかくどこか懐かしい感じがする。『薔薇(ばら)は自己を飾るとき庭をも飾る』という言葉を思い出す。そこに教会があることで必然的にその周囲をも照らして光に化すというのだ。そうであれば、主の建てられた教会を守り維持し続けたいと思う。

金沢元町教会 宮川美恵子



大台めぐみ教会にて

【常置委員会報告】

8月以降の常置委員会の決定事項

(主なもの・9月～1月)

- ◇教師に関する件
 - 辞任1件
 - 隠退1件
- ◇教会に関する件
 - 教会規則変更1件
 - 境内建物除却・取得申請1件
- ◇地区に関する件
 - 地区規則変更1件
- ◇能登半島地震被災教会支援に関する件
- ◇宣教師派遣願に関する件
- ◇助合伝道会計に関する件
 - 2025年度教師退職一時金積立額に関する件
 - 2026年度謝儀援助基準案に関する件
 - 2025年度伝道活動援助費に関する件
- ◇財務に関する件
 - 2025年度クリスマス献金の目標額に関する件
 - 2025年度宗教教誨師活動支援献金の目標額に関する件
 - 2026年度負担金算出案および負担金算定に関する件

謝儀・給与の控除額に関する件

2025年度助け合い関係費に関する件

- ◇教会記録審査に関する件
- ◇按手礼式執行に関する件
- ◇准允式執行に関する件
- ◇就任式に関する件
- ◇能登半島地震被災4教会、沖縄教区、ミナハサ福音キリスト教会を祈りに覚える件

【教区だより】

◇結婚祝 おめでとうございます。

萩原(旧姓 白砂) 誠一(飛騨高山教会)

【教区事務所より】

- ◇中部教区定期総会
 - 第76回中部教区定期総会は5月19日(火)、20日(水)に名古屋中央教会で行われます。
- ◇教区への提出書類
 - 教区への提出書類を3月初めに各教会へ送付いたします。提出期日をご確認の上、お早目の提出をお願いいたします。